

キャンパス散策(東京芸術大学)

東京芸術大学は、唯一の国立総合芸術大学として約120年にわたり世界的な芸術家を輩出し、我が国の芸術教育・研究の指導的役割を果たしてきました。こうした伝統や遺産を継承しつつ、創立以来の自由と創造の精神を発展させ、優れた芸術家、研究者、教育者を養成することを目標としています。

沿革 本学は、平成19年に創立120周年を迎えます。

明治20(1887)年10月、それまで文部省にあった図画取調掛、音楽取調掛をそれぞれ改称し、東京美術学校と東京音楽学校になりました。昭和24(1949)年、国立学校設置法により、東京美術学校と東京音楽学校を統合して東京芸術大学になり、平成16(2004)年4月、国立大学法人法により、国立大学法人東京芸術大学となりました。

組織 現在は、美術学部(絵画科・彫刻科・工芸科・デザイン科・建築科・先端芸術表現科・芸術学科)、音楽学部(作曲科・声楽科・器楽科・指揮科・邦楽科・楽理科・音楽環境創造科)の2学部14学科と、附属図書館、大学美術館、演奏芸術センター等により構成されています。大学院は、美術研究科・音楽研究科・映像研究科の3研究科が設置されています。また、音楽学部には附属する教育・研究施設として音楽高等学校が設置されています。

教育の特色 本学は、優れた芸術家、研究者、教育者を養成することを目標にしており、特に専門教育に関しては、教員と学生のマン・ツー・マン教育を中心とした少人数による教育に重点をおいて行っています。

卒業時には、美術分野では「卒業・修了制作展」(本学大学美術館及び東京都美術館他)を開催、音楽分野では「卒業試験公開演奏会」(本学奏楽堂)を開催し、教育研究の成果を広く一般に公開し、社会からの評価も受けています。

キャンパス キャンパスは、上野キャンパス(台東区上野公園内)、取手キャンパス(平成3(1991)年、茨城県取手市に開設)、横浜キャンパス(平成17(2005)年、神奈川県横浜市に開設)があります。

【上野キャンパス】

上野キャンパスには、大部分の学科とその他の施設があります。学内では、美術学校、音楽学校の名残からか、現在でも、親しみをこめて「美校」、「音校」と略されることが多々あります。

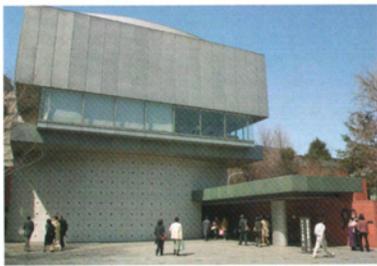
①美校側の敷地には、絵画棟、彫刻棟、金工棟、総合工房棟や講義室のある中央棟のほか、大学美術館、附属図書館などの施設があります。

②美校側から公道を挟んだ向かい側、音校側の敷地には、音楽学部1号館～5号館と練習ホール館、事務局棟のほか、奏楽堂、大会館などの施設があります。



【大学美術館】

美校側の門を入ってすぐ右手にある大学美術館には、教育研究目的に収集された「芸術資料」の収蔵品があり、指定物件(国宝・重要文化財)22件を含む、約28,000件という日本有数のコレクションが形成されています。これら芸術資料は、教育研究に利活用されるとともに、計画的に展覧会を開催し一般にも公開されています。



【石膏室】

大学美術館の隣にある絵画棟1階の石膏室には、多くの石膏像が並んでいて、デッサン力を高めるため、絵画科や彫刻科のみならず、他学科の学生も足を運んで日々研鑽を積んでいます。

【附属図書館】

附属図書館には、芸術に関する書籍を数多く所有しています。46万点の図書館資料のうち1,476点が貴重書として指定されており、その多くは東京美術学校、東京音楽学校時代からの蔵書です。

【藝大アートプラザ】

附属図書館の隣1階部分に、教員、卒業生らの美術品やサイン入りCDなどを販売している「藝大アートプラザ」があります。本学が企画開発した作品や、本学の教員等が創作した作品等の教育研究成果を、社会に対して積極的に発信しています。

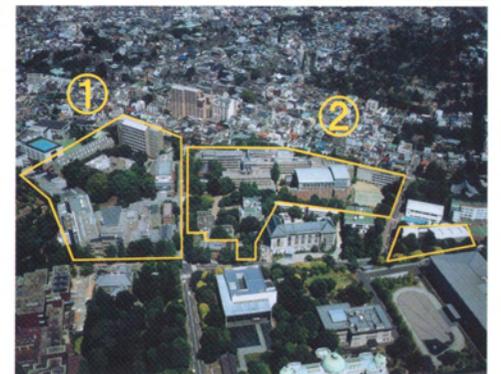


【芸術祭】

毎年9月に開催される大学祭「芸術祭(藝祭)」では、両学部の学科ごとに協力して作る「御輿」を担ぎ、上野公園を練り歩くメインイベントが「芸大生の底力」を感じる絶好の機会であり、必見です。もちろん、学生の企画による展示、演奏等は、学内教室、ホール等を利用し行われており、研究成果の発表の場にもなっています。

【奏楽堂】

音校側の門を入ると正面に奏楽堂が見えてきます。ここでは、各種演奏会のほか、入学式、卒業式が行われます。奏楽堂の天井は、世界にも例を見ない上下に動く可変式となっており、残響時間を調整することができます。これは、一つのホールを様々な種類の演奏会に対応するように造られているものです。演奏会、練習(授業)、卒業試験公開演奏会や学位審査演奏会などで、ほとんど1年間、ぎっしりとスケジュールが組まれ、フル稼働しています。



【能ホール】

奏楽堂を正面に見て、左手に音楽学部の講義室、研究室等が入っている各建物群があります。練習ホール館と5号館に第1～第6までのホールがあり、その中の第4ホールは邦楽科が使用する能舞台となっており、能ホールと呼んでいます。



【大学会館】

音校に入って右手に事務局棟、大学会館があります。事務局棟1階は学生課、入試・学務課などがあり、ロビーには就職情報がファイリングされ、また、インターネット検索用パソコンが並んでいます。大学会館は、1階に学生食堂、2階には談話室、和室のほか、展示スペースがあり、学生の合同展などに利用されています。



【取手キャンパス】

茨城県取手市のキャンパスは、美術学部1年生と先端芸術表現科・音楽学部音楽環境創造科、そして大学院美術研究科先端芸術表現専攻があります。

【取手アートプロジェクト】

毎年11月に行われる取手アートプロジェクト(TAP)は、平成11年より取手市民と取手市、東京芸術大学の三者が協働で行っている文化事業で、若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民に広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことを目指しているものです。本学が地域との連携によるプロジェクトとして、大規模でかつ長年にわたって続いているものの一つで、平成16年には文部科学省の現代的教育ニーズ支援プロジェクトに選ばれました。



【アートパス取手】

毎年12月に学生が主体となって開催される「アートパス取手」は、とても大きな規模で作品展示やイベント等が行われてたくさんの人を動員し、取手校地の代表的なイベントの一つとなっています。1年生は授業の一環として必ず参加するため、入学後最初に学内外に向けて、その成果を発表する場でもあります。

【横浜キャンパス】

神奈川県横浜市のキャンパスは、平成17年4月に新設された大学院映像研究科が展開しています。映像研究科は映画専攻、メディア映像専攻(平成18年4月設置)とアニメーション専攻(設置予定)の合計三つの専攻をもつ研究科として構想されています。

馬車道校舎は、旧富士銀行の建物を改装して使用しているもので、外観は昔からの重厚な景観を保っています。1階は授業が行われていますが、同じ1階にある授業をサポートするスタッフの部屋は、その活動が一目でわかるオープンな造りとなっています。2階以上には、教員室や試写室などがあります。なお、メディア映像専攻設置に伴い、旧新港客船ターミナルに新校舎を開設しました。同専攻の研究室のほか、映画専攻も含めた大小の撮影スタジオ、ギャラリーなどがあります。

